

致道ライブラリーの現在とこれから

なんば かすみ
難波 和美

(鶴岡先端研究教育連携スクエア致道ライブラリー)

致道(ちどう)ライブラリーをご存知ですか？
多くの方はあまりご存知ないと思いますので、
ここで紹介します。

1 はじめに

2001年4月、山形県鶴岡市に、山形県と鶴岡市を含む庄内地域市町村、東北公益文科大学(以下、公益大)、慶應義塾大学(以下、慶應)により、鶴岡タウンキャンパス(以下、TTCK)が開設された。

TTCKは鶴岡市の中心地にあり、目の前に日本さくら名所100選にも選ばれた鶴岡公園がある。

致道ライブラリーはTTCKに併設され、2001年5月に開館した鶴岡市、公益大、慶應の三者が連携・共同運営する図書館である。誰でも利用でき、庄内地域在住・在勤・在学の方には貸出サービスも行っている。致道ライブラリーの「致道」は、庄内藩校「致道館」、さらには論語にある「君子学んで以テソノ道ヲ致ス」に由来する。

開設から今年で13年目を迎える致道ライブラリーの現在について述べたい。



写真 1. 致道ライブラリー館内

2 現状

(1) 蔵書と施設

蔵書冊数は約28,000冊(和書約25,000冊、洋書約1,500冊、視聴覚資料約1,500点)で、主に生命科学を中心とする自然科学系の資料、公益学に関する人文・社会科学系の資料を所蔵している。専ら中学生

以下を対象とする資料は収集していない。

この他に、自然科学系と人文・社会科学系の和雑誌29誌、洋雑誌約12誌を継続購入している。

書庫スペース464m²、閲覧・学習スペースは200m²、閲覧席は65席で、館内は静寂が保たれている。

(2) 職員構成

三者で運営しているため、鶴岡市職員2名、公益大職員1名、慶應職員1名の4名で運用を行っている。パブリックサービスは主に全員で、テクニカルサービスは公益大職員と慶應職員が担当している。

(3) 利用状況

利用者は、一般市民、公益大所属者、慶應所属者に分けられる。一般市民の利用が多く、2012年3月末までの入館者数では全体(184,497人)の88%、貸出冊数では全体(59,876冊)の63%を占めている。近隣に高校が多く、試験期間になると館内は勉強する高校生で閲覧席が埋め尽くされる。年間入館者数は夏季が最も多く、冬季は夏季の7割程度である。庄内の冬の厳しさを物語っているといえよう。

(4) 閲覧規則

近年、一般市民に開放している図書館として、そして公益大・慶應所属者にとっての大学図書館として、利便性の向上を目指し閲覧規則の変更を行っている。

まず一般市民利用者向けに、2010年1月より、貸出冊数を従来の6冊から、公益大・慶應所属者と同様の10冊に引き上げた。この変更により、全利用者の貸出冊数が統一された。

さらに、公益大・慶應所属者向けに貸出期間を変更した。従来は全利用者が貸出期間2週間で、2回の更新が可能であったが、公益大・慶應所属者から期間が短いという意見が寄せられた。そこで、慶應の各メディアセンターの閲覧規則も参考に、2012年4月より、学部4年生・大学院生・教職員の貸出期間を1ヶ月に変更し、サービスの拡充を図った。また、雑誌のバックナンバーの貸出も同時期に開始した。全利用者が対象で、貸出期間は3日間である。この閲覧規則は、資料の相互貸借を行っている公益大メ

ディアセンターと共通である。

(5) その他

利用促進を図るため、資料紹介コーナーを設け、職員がテーマを考えて展示を行っている。2011年6月には「菌類」に関する資料を集めた展示を行った。これは梅雨時の展示として、自然科学系の資料を多く所蔵しているという特色を生かして企画したものである。菌類への利用者の反応が心配ではあったが、思った以上に好評であった。この他に、毎年夏に設置する「図鑑コーナー」、毎年秋に致道ライブラリー主催で行う「市民のための生命科学入門講座」の内容に即した資料を集めた展示を行っている。

また、一般市民の利用が多いため、よりわかりやすいサービスの提供を心がけている。例えば、雑誌の最新号の複写が受け付けられないことについて、館内表示も行っているが、それでも最新号の複写を申し出る利用者が多かった。そこで、一目でわかるように、個々の最新号につけるしおり状の表示を作成したところ、とても効果的であった。今後もきめ細かいサービスを提供していきたい。

3 からだ館がん情報ステーションの取り組み

「からだ館がん情報ステーション」(以下、からだ館)は、患者・家族、一般市民に、がんに関する情報を提供する慶應義塾大学先端生命科学研究所の研究プロジェクトとして、2007年11月に致道ライブラリー内に開設された。大学が地域の医療機関や行政と連携・協働して地域のニーズに応えていく、新しい「地域協働」のプロジェクトとして位置づけられている。各種がんの診療ガイドラインや解説書、闘病記など約1,400冊の蔵書のほか、患者会の会報や冊子等を揃えている。また、がんについての情報探しをサポートするスタッフが常駐している。

からだ館は、一般市民向け勉強会や健康に関する料理教室、患者サロンなどを開催し、いずれも好評である。近年はがんだけでなく「健康」をテーマに活動を広げている。その他にも、毎年、小学生を対象にしたワークショップ「夏休み自由研究おうえん隊」を開催しており、小学生がさまざまな体験や実験を通して「健康」「いのちの大切さ」「地域のはたらき」について学んでいる。この企画と運営には、湘南藤沢キャンパスの大学生も参加している。また、一般市民の見学会や出前講座を随時開催したり、か

らだ館の活動を伝えるニューズレターを定期的に発行するなど、その取り組みを広く発信している。



写真2. からだ館がん情報ステーション

4 おわりに、そしてこれから

開設から13年目を迎え、利用者は増加傾向にあるが、いまだに「誰でも入れますか」「誰でも使えますか」等の問い合わせが多く、まだまだ知られていないことを実感している。利用促進だけでなく、まず知ってもらうために広報に力を入れていきたい。

三者運営体制の利点は、多面的に物事を見ることができることにある。この利点を生かしつつ、これからも常に利用者の目線に立ったサービスを追及し、より身近で使いやすい図書館を目指したい。そして公益大・慶應の大学図書館として、地理的不便さをできるだけ感じさせないように、研究のサポートにも取り組んでいきたい。

さらに、すぐ近くには鶴岡市立図書館がある。様々な分野の蔵書があるので、連携ができたならと考えている。例えば、同じテーマで両館の特色を出した展示などできたら面白いのではとも思っている。

致道ライブラリーはこぢんまりした図書館で、館内からの四季折々の眺めも良く、心安らぐ空間です。

鶴岡へお越しの際は、ぜひ致道ライブラリーにも足を運んでみてください。